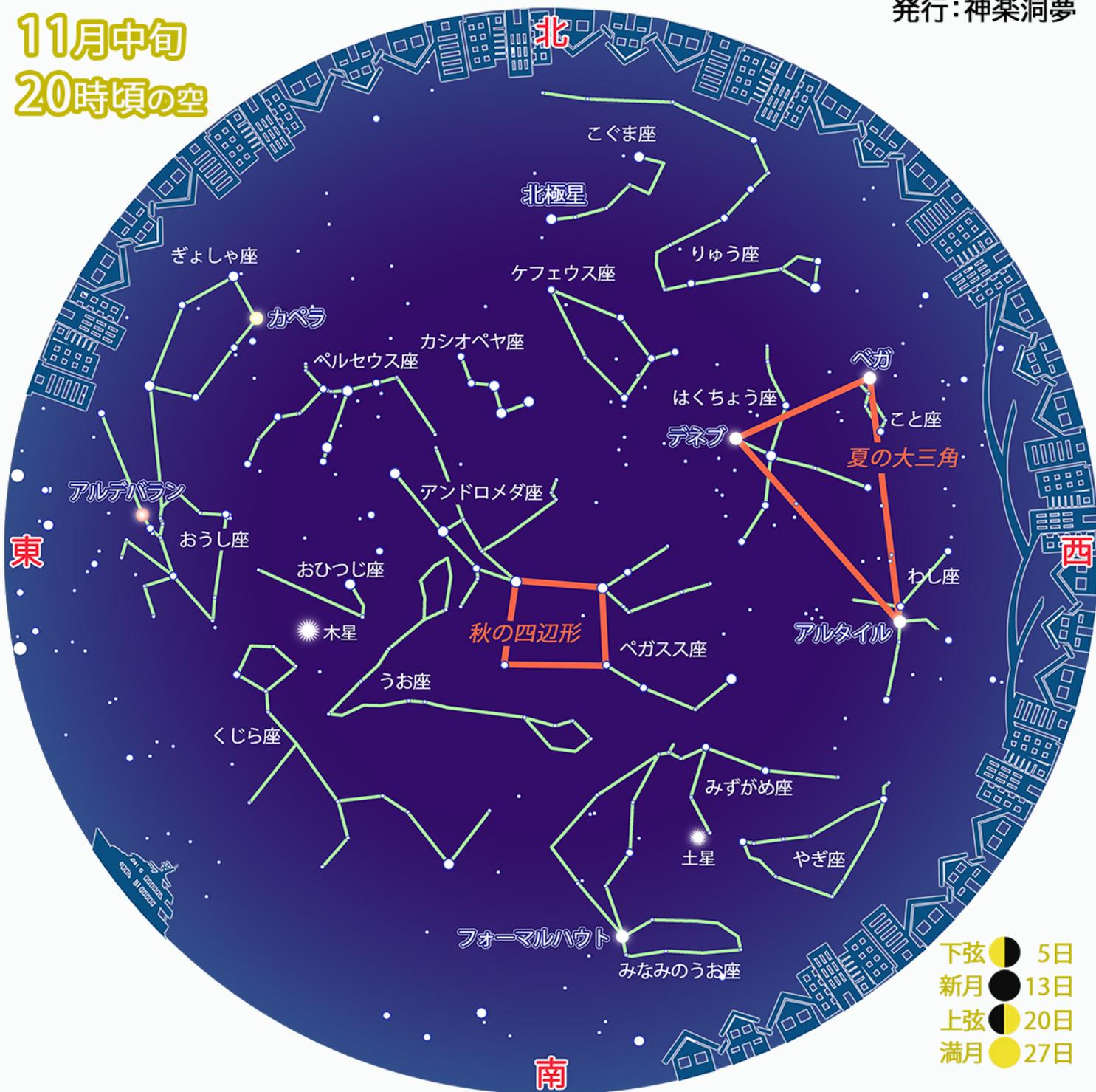


11月中旬
20時頃の空



11月に入り、秋の深まりもより一層感じられるようになりました。晩秋の宵空を見上げると土星と木星の二つの輝きが目立ちますが、じっと暗さに目を慣らしていけば、秋の星たちの輝きを捉えることができます。そのなかでも2~3等級の星で結ばれる「秋の四辺形」やカシオペア座は比較的早くに見つけられるでしょう。秋のスターウォッチングを楽しまれる際は、防寒対策をしっかりとって、じっくり楽しみましょう。

天王星がおひつじ座で衝を迎える

宵の頃、東の空に見えるおひつじ座に位置する天王星が、11月14日に「衝」となります。「衝」とは、太陽系の天体が地球から見て太陽の正反対側にくる時のことです。衝のころは地球との距離ももっとも近くなるため、明るく輝いて見え、観察のチャンスでもあります。

天王星の明るさは5.6等級で、双眼鏡を使うと比較的容易に見つけられます。同じく、おひつじ座にある木星をたよりに大まかな位置に見当をつけて、太陽系第7惑星を探してみましょう。

“青い”惑星は地球だけじゃない

18世紀末にイギリスの天文学者ハーシェルによって発見された天王星の直径はおよそ5万キロメートルと地球のおよそ4倍、質量もおよそ15倍ほどあり、太陽系で3番目に大きな惑星です。太陽からおよそ29億キロメートル彼方を84年ほどかけて公転しています。

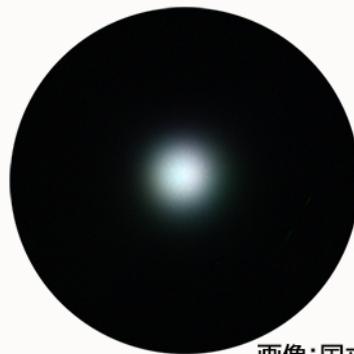
しかし、天王星最大の特徴は、自転軸の傾きが98度もあることです。

つまり、天王星は横倒しの状態で太陽の周りをまわっており、両極に近いところでは昼と夜がそれぞれ42年間続くこととなります。また、天王星は、木星や土星に次ぐ数の衛星をもっており、現在27個が見つかっています。天王星はほとんどが水やアンモニア、メタンの氷からできている星で、似たような組成である海王星と合わせて「巨大氷惑星」とも呼ばれます。

大気の組成は水素、ヘリウム、そしてメタンからできており、高倍率の望遠鏡で天王星を観察すると、メタンの影響で青緑色に見えます。

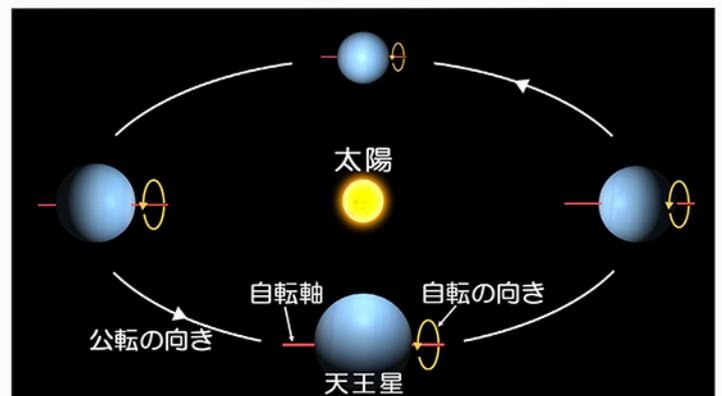


11月中旬20時ごろの東の空の様子

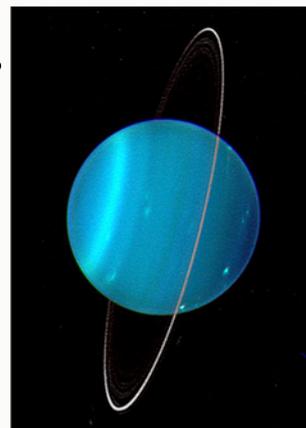


高倍率の望遠鏡でのぞいた天王星

画像: 国立天文台



横倒しで太陽の周囲をまわる天王星



ケック望遠鏡がとらえた天王星とリングの姿

画像: NASA